

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



和清山香 校學門專曲 校會 所刷印

黎明期にある

東亞建設の聖業

シルク時報社主幹 長見公祐

戦時下第三年を迎へるに際し、時局は今や進展して、新秩序の建設により東亞永遠の平和を確保すべき新段階に到達して居る。元より長期建設の根幹となるものは東亞経済協同体制の確立である。即ち日滿支を打つて一丸とし、之れが興行盛衰の運命を共にする新聖業が、伸び行く民族本能によつてハッキリ認識されるに至つた事は勿論である。此東亞協同体制の聖業を再編成して、強力な結成体を作る事が吾々日本人に課せられた長期建設の崇高目標で無ければならぬ。従つて吾等は緊要第一に長期建設の信念を固くして、如何なる萬難をも排し、聖業の目的達成に一段の奮勵努力を必要とする所以である。

翻つて慮るに、自由主義経済時代から正に百八十度の轉換を餘儀無くせられたるある統制主義経済の今日に於いて、先づ認識を新にしなければならぬ事は景況懸念である。即ち数年前の自由経済時代には、資本主義経済が自由競争を本體として、勝手に活躍した爲、總ての物の價格にも自由奔放性を發揮して騰貴を重ねたけれども、今日の如く物資も資金も勞力も國家の力で大乗的に統制せられて居る關係上、物の上り下りに自由を失つて居る處に思惑的の景況観の如きは既に過去の夢と化し、宛然統制一色のガツツリした景況に塗れつゝ居る。獨り生絲商



品の統制増外におかれて居る事は注目すべき點である。生絲が我國に於ける唯一の資源であり、國際的商品である以上輸出を促進して、貿易收支改善に資すべき重要使命を持つて居るが爲である。然れば他商品が統制強化で動きの探れぬ生絲のみは比較的自自由性を存して、生絲報國の實を擧げて居る事は寔に喜ばしき事と云ふべきである。

我國の現況に於いて國際收支の改善を圖り、海外支拂力を擴充する事は刻下の喫緊事であるが、我對外交渉力の擴充を計る爲には輸出貿易の振興に俟つての外は無い。我國の輸出貿易は昨年七月以降好轉して、十一月末に於いては四千七百餘萬圓の輸出超過を示すに至つたが、近年の貿易不振を憂慮せられた折柄、斯くも好轉曙光を見出す機運に至つた事は事變下に於ける異例の現象であると共に、其際に生絲報國の潜在性を銘記しなければならぬ。然し乍ら我國の輸入力の基礎となるべき滿洲國及支那を除く所謂第三國の關係に就いては、相當多額の輸入超過を示し、前途に道は狭きものとなつて居る。今日輸出貿易の一大支障となつて居る國內物資の昂騰及輸出品原料の手當難等に就いては、夫々政府に於いても鋭意考慮を拂ひ、物價の抑制に努めると共に、輸出品原料の手當難に對しては商品別リンク制、外國爲替基金の設定、特殊保税工場の利用等、萬全の對策を講ぜられつゝあるが故に、兎に角

政府の處置を信賴して、官民一致協力以て時潮に適合した輸出増進策に努める事が肝要である。

東亞建設の聖業を達成する爲には、金と物と人を總動員してかかる事は前述通りであるが、本年は更に一段の拍車のかげられるであらう事は勿論である。尤も此三大必須條件の重要性も時と場合により變るものである。即ち戦時下の第一の昭和十二年は何をおいても金の時代の觀を呈したもので、第二の昭和十三年は物の經濟に移行し、更に本年は一段と物の經濟が強化されると見なければならぬであらう。古來戦争は軍需品を初め國家必要の莫大な物資を必要として居る。現に昭和十二年の戦争第一年にあつても莫大な物資の需要が起り、當時は國內に豊富に在庫品があつたが、當時は國內に又海外から物資を得る爲の金の資金があつて、何等痛痒を感じず、當時は寧ろ資金を減らさぬ事が最大關心事であつたが爲に、爲替管理法とか輸出入措置法等の運用に全力を傾注せられた。然るに第二年度の十三年になると愈々戦争も長期に亘る事が明白になるに及び、情勢も一變し、戦線は擴大して、物資の需要は急激に膨脹を餘儀無くした結果は、國內在庫品は漸次減少の一途を辿り、一方外資も減る情勢に鑑み、遂に昨年夏頃から物資總動員による物の強力なる統制が實施されるに至つた。即ち民需を抑制して戦争目的の物資確保となり、鐵、鋼を初め、棉、羊毛皮、カゴリン、木材等々と次々と展開される状態となつた。

戦争も武漢三鎮の攻略によつて一階梯に達したものの、今次聖戰の根因をなすコミンテルンの勳滅にある事を思へば、依然として鋒先を收める譯には行かず、軍國國防は一段の強化を必要とせられる所以である。然かも支那を含む新大陸の長期建設といふ大きな任務を控へて居るから、一方に剣をとり一方に筆を持つて是は文武兩道の形である。何れにせよ長期建設に必須不可缺のものに物資である。即ち戦後の復舊にせよ、鐵道及工場建設等には鐵、鋼、木材が必要となるから假令一時戦争は一段落の態を見せ居るもの、物資の需要は益々加はる一方である。現在の國際關係を以てすれば、飽く迄日本の自力で押し進め外無き實情においては、國內民需を敢へて犠牲としなければならぬ。國民も政府の意のある處を諒として、臥薪嘗膽すべき秋でもある。斯く觀じれば前年以上に不自由を忍ばなければならぬであらう。假令海外から輸入

Advertisement for '大和式自動輸送乾繭機' (Daiwa Automatic Silk Reeling Machine). Includes a detailed illustration of the machine, the text '現代乾繭機界ノ王座' (The Throne of the Modern Silk Reeling Machine World), and a list of features and specifications. The manufacturer is '大和三光商會' (Daiwa Sankei Kaisha).

される原料による物資なり、製品のスツクも多少残つて居るにしても、今年は一途を辿り、貿易收支の改善に資する處は少くないものがあるが、之れといふのも生絲が實勢を本質として、飽く迄穩健に前提とするに外ならぬものである。然れば生絲生産業者の立場とすれば従前に産相場の大きを期待せず、只管大勢に順應して賣抜ける事が最後の騰勢段階に進んだ。元より生絲は統制増外におかれた商品であるから、減産の現實化と共に價格の昂騰を促すであらうと見られるものも當然であるけれども、今後値段の高まるに連れて、人網の進出を促し、需要の減退を生じ易い點を考慮すれば、需給の天張りも樂觀も許されず、然かも季節的不需要期に當面して居る事を思へば、非々警戒を要すべきであらう。斯くして實勢本位に生絲を保つ事が結局輸出増進の基調ともなり、之れが引いて國際貿易收支改善に資する所以である。

張鼓峯事件に就いて

聖戰の新年を迎へ竹の園生の彌栄を祈る
と同時に出征各地の戦線に活躍中の皇軍
の武運長久を祈る次第である。月日の流
れと日支事變の戦線の擴大につれ銃後國
民の胸裡より去つたある昨夏の張鼓峯
事件の一端を自分の戦線日記を辿りつゝ
其の模様を御報告する。

越境より張鼓峯占領迄

炎熱鐵をも溶かす大陸の七月半ば、凶
悪なる蘇聯軍は日本をあらゆる年來の野
望を貫徹せんと日滿ソの三國の張鼓峯
の山頂に不法越境し來り。張鼓峯は
豆満江に沿へる靈峰とも云ふべく此處
より見れば雄基附近の要塞地帯領要所を
始め豆満江の下流より遠くボジエツト灣
も見られる重要な地) 而して其の態度は
愈々濃厚さを加へ、附近部落をかすめ、
朝鮮領重要地帯を觀測し、或は偵察に向
ひし松下憲兵佐長の射殺等次々と不法行
爲をなしたる。ソ軍が斯くも挑戰的
態度を取り來りたるは日支事件の擴大に
つれ日本は戦力を消耗し盡し經濟力は愈
々窮乏を告げ、ソ軍と戦ふ意志なしと見
極め、又一方作戦の最重要なる漢口攻略
戰の策劃策として不法越境せるは何人も
認める所である。日本はかかる不法行爲
に對しても飽迄も穩に外交交渉にて解決
すべく努力したが、其の挑戰的態度は日
を經るに従つて益々濃厚となり、時たま
七月二十九日守備隊員小數と敵の監視兵
三十名と衝突を始め、ソ軍は發砲し我軍
に危害(戦死一負傷三)を與へ今迄忍ば
れるだけ忍び來たのであつたが終に許さ
べからざるに至り、國境守備にあつた一
部は張鼓峯より五百米位隔つた將軍峰
の脚に三十日黎明頃到着した。大陸の炎
熱と敵軍は敵襲の前振れの如く猛威を極
め不擴大の平和解決は大陸の黎明と共に
破られ、〇〇命令にて七月三十日夜襲
を敢行張鼓峯を占領することに決し、三
十日夜間の十二時を期し行動を開始す。
敵兵力は七月十一日越境以來益々旺盛と
なり張鼓峯裏手には糧倉は毎日増し、
加之極東正規軍の機械化部隊を動員しつゝ、
張鼓峯附近に向け輸送を開始、ボジエツ
ト灣には軍艦數隻が見ゆる様になり、此
の日の機に於て張鼓峯を取らざるは何
時の日か之を得ん迄の急迫を告ぐるに至
つた。一度行動を開始すれば敵は今に來
るか、今に來るか四方八方へ監視哨を出

してゐたので友軍の静肅も忽ちに破れ敵
より射ち出す銃砲聲は天地も裂けんばか
り照明火、照明彈、曳光彈、探照燈が大
火事場以上の光景を現出した。左側背に
廻つた〇〇隊、正面より猛進した。左側背に
右側背をつかんと進んだ。敵は山にチツ
コ機銃を据へて射撃を浴せしめ、あつ
た。山腹に近くなるにつれ敵兵の狼狽が
將又逆襲か兎角喊聲らしい聲が手に取る
様に銃砲聲の間に聞えて來る。然し之以
以上前進も移動も出來ず肉弾に肉弾を
以てすれば戦傷者の數を増すのみ。此處
に於て勇壯なる決意の下に日本軍の位置
此處にありと山頂目掛けて榴彈の雨を降
らした。然し數ある弾を以てしては到底
撃退も不可能、夜は次第に更け東の空は
白々となり來つた。勇士の顔は益々くも
護國の英靈となり身を以て此の山を占領
せんものと神々しい迄に至つた。やがて
中隊長は一兵となるも突撃を敢行し夜の
明けの途には山頂高らかに日章旗を翻さ
ねばならぬと悲壯なる命令を下した。彼
我の交戦は愈々劇しく左側背に向つた〇
〇隊も十二時に行動開始してより苦戰に
苦戰を重ねてゐる。ソ聯兵のウラー、ウ
ラーの喊聲のみ不氣味と上つてゐる。や
がて敵軍の突撃號令と共に一齊に山頂
目掛けて連二無二岩にかじり鐵條網を破
り日頃の陣前を見せるは此處ぞと進んだ
雨あられと飛び來る砲、銃、手榴彈の爲
め戦友は次々と倒れるが志氣は愈々揚り
火の玉の如く銃劍、軍刀を振つて倒れて
は起き倒れて起きて突撃し第一陣へ突込
んだ。敵はかかる勇猛なる行動に恐れ
か後方陣地の銃聲も稍々落ちて來た。そ
れと呼應した側背を廻つた〇〇隊の生存
勇士は日章旗を先頭に突撃して來たのが
夜も次第に明け朝霧の中にかすかに見え
る。兩々相呼應し後方第二陣地へ又も肉
弾戰を展開、奮戦の結果漸く敵陣地を搦
亂突破し逃げる敵に掃射を浴せしめて
日章旗を崖上高く翻翻と翻したのを見
次第に齊れ日本海の波もかすかに見える
頃であつた。敵兵は逃げれど砲聲は息
づく間もなく山頂附近に落下す。敵戦車
は友軍の連射砲の爲め或は擱座し或は火
を吐き逃げ行く。或は命中と同時に轉覆
する。敗殘兵は長池より右の方へ逃げれ
ど右側背に廻つた〇〇隊の向射ちに依り
ばた／＼倒れるのが山頂より手に取る様
に見受けられる。山頂には敵の遺棄した
つた兵器、彈藥、食糧、死体は山の如く

八月一日——全四日迄

散亂されてあつた。斯くして張鼓峯は完
全に我が手に歸したのであるが此の戰闘
に於て我が軍の犠牲者又英大であつた。

今日も夜が明けると同時に敵の重砲陣
地數ヶ所より砲口を揃へて打ち出す重砲
彈は敵軍も天晴れ落達は明確にして張鼓
峯一帶、沙草峯、將軍峯、豆満江渡船場
附近へ雨の如くに落ち始めた。午前十時
頃砲聲少し止まつたと見る暇もなく浦鹽
方面からの重砲の編隊三十數機は銀翼を
大空に並べて物凄い唸り音を立て飛び來
つた。指揮官機と見ゆるもの低空に急降
下を始めたかと思へば全編隊機一齊に張
鼓峯に向け續いて急降下、頂上と見へる
邊へ來た時百乃至二百五十軒爆彈を各機
が發射した。射撃は頂上を少しはずれた
崩れかたの威力其の音、黒煙は天にも
届かん物々しい有様であつた。山頂より
始め各要所より之れにひるまず猛烈と
火蓋を切り徹甲、曳光包は敵機に向け
注がれた。爲めに指揮官機は忽ち火を吐
き出した。續いて二三機も黒煙を吐き
狂へる大驚の如く首爆を敢行、残れる
機は尚も勇敢に二手に分れ、一部は雄基港
方面へ向ひ首爆を行ひつゝ、一部は豆満
江に沿つて鐵道帶の要所古城守備隊、
渡船場、橋梁を首爆し迂迴して煙秋方面
へ、雄基方面へ向つた編隊は日本海岸上
を經てボジエツト灣方面へ姿を消した。
火を吐いた指揮官機は豆満江邊りの鮮領へ
氣持のよい程勢よく落込んだ。他の二機
も黒煙を吐きつゝ不時着した。重砲の嵐
の後には又時を移さず重砲の猛射を始め
た。午後二時頃に至つて又以前にも増し
千二、三百米を保ちつゝ、飛來し重砲機は
爆撃しつゝ、鮮領に入り、戰闘機の編隊は
入り亂れ急降下に急降下をしつゝ、機銃の
掃射を浴びせ、頭を上げ射撃も出來ざる
様、眞實に銃彈の雨を浴せられた。小銃
のみの歩兵は之れには全く閉口し目も當
たらねぬ程だつた。此間約三十分、友軍
はかかる不運なる機械的攻撃に對して、
不擴大主義を取り一歩も國境線を出でず
涙を呑んで隠忍に忍び続け友軍の飛行
機は思ふ高射砲の音さへも聞かぬ有様
であつた。酷熱の大陸の夕日が稍々西山
へ傾く頃より又一、二時間所謂薄暮砲擊
が猛烈を極め夜の帳が降されと同時に戰
車の轟々たる大音、索引車の騒音入り亂
れ言はん方なし。

明くれば二日張鼓峯の左方高地(約半
里程の距離)に占據せる敵陣地占領すべ
し。約〇〇名を以て昨日より空腹疲勞
も物かは、濕地をわけて山腹を縫ふ様に
接近す。砲聲は昨日にも増し前進する前
後に、張鼓峯に、將軍峯に、沙草峯に、
渡船場に、鐵道附近に鮮領部落にと猛烈
に落達し黒煙を上げつゝある。左方高地
所歩五二高地には敵戦車十數臺、重砲數
門、歩兵一ヶ隊隊員が集中中の事。大
陸の酷熱は愈々暮り飢と疲れとで倒れか
ゝるのを我慢しつゝ、前進を續けた。高地
を越へ、濕地を渡り、四地を突破し身邊
附近をかすめ飛び來る銃砲聲を避けて、
長池の手前まで五二高地の左前方に漸く苦
戰の結果迫り着いた。前方高地は豫備隊
を益々増加し、抵抗線を固めつゝある状
況が双眼鏡がなくとも能く見られる。皇
軍の最も得意とするは攻撃前進にあれど
如何にせん此處は國境故敵を目の前に置
いて餘儀なく止まり遮断することに決定
右〇〇隊は五二高地突角占領の報に接す
時に午後一時、灼熱の太陽にじり／＼と
照りつけられ湯く咽喉を我慢しつゝ、時
經つのを待たつた。薄暮迫る頃四地に遮断
しあつた戦車の動きと共に猛烈と逆襲を
開始し忽ち亂戦に陥り苦戰となつた。
然し此の時折よく張鼓峯にあつた歩兵砲
の援護射撃を受け砲聲は頂上をかすめ唸
りを生じ續けざまに浴びせつゝ呉れたので
戦車は見る見る内に三臺轉覆、重機の徹
甲彈で右往左往する戦車目かけ銃口も裂
げんばかりに又擲彈筒の榴彈を一齊に浴
びせられたり流石の敵も逃げ腰となる。此
處ぞとばかり歩兵の突撃で漸く撃退せし
めた。日はとつと暮れ暮れ暗れた空には星
のみ爛々と輝く静けさが續いた。暫くし
て又敵は包圍形態を探り呼吸を鳴しつゝ、
相當の兵力で肉迫し來た。五二高地の脚
附近ではウラーウラーの喊聲を上げつゝ、
手榴彈を高く投げつゝ、突込むのが手に取
る様に知られる。我々の隊は直ぐ近く迄
引つけ不意を打つべく沈黙を續けた。前
進する敵は伏兵あるを知らず小聲や呼吸
を鳴しつゝ、迫つた。此處ぞと許りに火蓋
を切る。手榴彈の投げ合ひの大喧嘩、重
機、チェコの唸り忽ち阿鼻叫喚の光景を
現出したが猛烈とか、つた大驚の如き皇
軍の爲めに大半は逃走残れる者は白刃の
下に止め刺された。重傷者を收容し五二
高地頂上へ移動を開始した頃は晴れた空
は黒雲さへ現れ一層不氣味なものがあつ

た。その夜其後は逆襲はなく嚴重なる響
破を以て徹宵した。夜の更けるに従ひ大
陸の帯として冷氣加り小雨さへ混つて來
た。

三日四日は前日に續いて同じく張鼓峯
を中心とする要所々に砲擊爆撃が猛烈
に行れ目を重ねるに従つて其の攻防は愈
々固く勇士の士氣は一段と高まりつゝあ
つた。

四日夜に〇〇隊が五二高地に移動したの
で其の夜沙草峯へ移る。五日逆襲に伴ふ
戦車二十數臺、重砲に戰闘機の首爆と掃
射、重砲火の亂射、張鼓峯山頂は數日の
砲聲、爆彈の爲に變形する位になつた。
毎日作る豪も忽ちに破壊される。其の夜
又張鼓峯へ移動す。

六日から七日
酷熱の太陽は張鼓峯南側へ照りつけ水
銀柱はどん／＼、鋭上り張鼓峯脚の防川江
部落は(四十數戸の鮮領部落)爆撃と
砲火の爲め數日前とは一變し家屋は跡方
もなき様大穴は無數に無儀にも大空に向
け慘たる其の状を物語つてゐる。燒煙は
霧々と立ちこめてゐる。食糧は乾パン僅
かの外來らず、水を得られず、飢はひし
／＼、追れども勇士の士氣は益々昂り爆撃
と砲聲は今も物の數でなく連日の不眠不
休で銃を肩に立てかけこり／＼と居眠
り始めようと／＼する事二、三時間。其の
頃より友軍の砲聲開始され敵砲聲と入り
亂れて唸りを生じ飛び交ふ。午後四時頃
に至り彈着は益々山頂に命中する様にな
り壕は破れ破片、石片、銃聲と合して頂
上より破れ破れ遮断するべく餘儀なくされ
たので崖にへばりつた。突如監視哨よ
りの敵襲の雄叫びにすぐ配置についた。其
の間ばた／＼と負傷戦死で倒れる。前に
出て見れば敵戦車三十數臺も山腹にへば
りつて居た。歩兵は戦車の蔭にかくれ
約一ヶ隊隊員の兵力と覺し程見られる
今日こそ必ず奪還せんと物凄意氣込み
らしい。一部の兵は早くも五〇米位の至
近距離に迫つて來た。彼我の交戦遠くの
連山にこだまして手榴彈の投げ合ひ、重
機、小銃の銃身は眞赤に燒け裂けん程
に、そして砲のありつたけを射まくつ
た。突角の聯隊砲は零距離射撃を行つて
砲前の敵を蹴散らしてゐた。斯くする事
約三時間、午後七時頃に至つて漸く之れ
を制壓し當面の敵を四散せしめた。午後
八時頃敵の約三ヶ隊は戦車を伴ひ山頂

(三) 面へ續く

(二面より)

目がけ真面攻撃をして来た。頂上の我が... 敵は幾多の死体を遺し退却... 敵は我が手薄を察知してか...

八日 停戦迄... 其の後昨六、七日の敗戦を取返そうと... 敵は我が手薄を察知してか...

池附近の壕に寄れる敵兵數名宛宛勇敢に... 敵は我が手薄を察知してか...

支那の蠶絲業... 支那大陸に足を踏み入れてより満一年... 蠶絲業の不振は...

(三)

九日黎明、俄然右尖角正面へ攻撃し来... 敵は我が手薄を察知してか...

支那の蠶絲業 (續)... 蠶絲業の不振は... 蠶絲業の不振は...

支那の蠶絲業 (續)... 蠶絲業の不振は... 蠶絲業の不振は...

母校ニユース

岡田量雄氏退職... 故岡宮辰夫氏無言の凱旋... 九月二十四日...

卒業證書授與式案内

拜啓 愈々御清稜の段奉慶賀候、陳者来る三月十五日午前十一時より本校内に於て第廿六回卒業證書授與式舉行可致候に付御臨臨の榮を得度此段御招待申上候

入學案内

募集人員 養蠶科、製絲科、絹紡織科、通計百名... 試験科目 養蠶科、平面幾何、英語(英文和訳)...

上田蠶絲専門學校

左の如く、第三學期の修了、東察... 高松長任命、第三學期の修了、東察...

地無二終州巡ハ城過口家青月日め蘇五海倉一て出... 職支今後令練... 職支今後令練... 職支今後令練...

志願者名簿... 志願者名簿... 志願者名簿...

職支今後令練... 職支今後令練... 職支今後令練...

叙任辭令

母校之部 小松 忠幸 日幡 暎一 願ニ依リ副手ヲ免ス 十二月十九日 副手 岡田 量雄 十二月二十二日 願ニ依リ副手ヲ免ス 十二月二十八日 願ニ依リ副手ヲ免ス 十二月二十八日 願ニ依リ副手ヲ免ス 十二月二十八日 願ニ依リ副手ヲ免ス 十二月二十八日 願ニ依リ副手ヲ免ス 十二月二十八日 願ニ依リ副手ヲ免ス 十二月二十八日

卒業生之部

生絲検査所技師 大塚 重藏 米國へ出張ヲ命ス(十三年十二月廿一日) 正八位 三好 圭一 叙從七位(十三年十月十五日) 岐阜縣農林技師 宮川 繁治 地方農林技師ニ任ス 高等官七等ヲ以テ 待遇セラル 岐阜縣農林技師ニ補ス(十三年十二月二十二日) 蠶絲試驗場技師 森山 二郎 九級俸下賜 生絲検査所技師 沖 濤治 四級俸下賜(以上十三年十二月二十四日) 地方農林技師 小野 修二 十一級俸下賜(十三年十二月二十三日) 正八位 池内 眞吾 叙從七位(以上十三年十月十五日) 公立實業學校教諭 本谷 良雄 七級俸當分千五百下賜 公立實業學校教諭 小松原徳治 七級俸當分千五百下賜 公立實業學校教諭 中根 眞一 七級俸當分千五百下賜(以上十三年十月十五日) 地方農林技師 小島 杉門 十級俸下賜 公立實業學校教諭 眞一 七級俸下賜 但當分千六(以上十三年十月十五日) 叙從七位勳七等 有我 彰夫 從七位勳七等 有我 彰夫 叙勳六等瑞寶章(一月十六日) 正六位 網林 貢 叙勳六等瑞寶章(以上十三年十一月一日) 朝鮮公立實業學校校長 小笠原安重 六級俸下賜 同 岸 勝彌 朝鮮公立實業學校校長 伊藤 喜代 九級俸下賜(以上十三年十二月二十八日) 地方農林技師 菅澤 隆三 九級俸下賜(十三年十二月二十日) 同 玉木 勝彰 十級俸下賜(十三年十二月二十七日) 朝鮮産業技師 北澤 茂 六級俸下賜(十三年十二月二十八日)

支會通信

倉澤白澤兩氏を迎ふるの記

滿洲支會

内地と外地では自ら空氣が違ふものである。然しそれは口や筆で現はせるものではなく結局直接見て貰はねば判らぬ間題である。特に滿洲大陸は伸び行く日本の灼熱の尖端だ。滿洲千曲會も將に同様今年竹の様な發育盛りであつて凡に未完成である。兎角双方に考方の噴進もある。一度は見貰ひ度い。教えて貰ひ度い。そして少し上田の方にも大陸意識を取入れて教育にも反映して貰ひ度い等々。之が多年の支會内の聲であつて仕舞には母校側の出不精に對し非難不満とまで募つて行く有様。舊關東東で倉澤、白澤兩君に會つた時支那旅行の噂を聞いたので極力滿洲廻りを勧めた。處が十二月十八日頃來奉の通知あり。(後)後判つたが此日程は倉澤君の知らぬものであつた。早速スケヂューニルを作つて會員に聯絡し待てど暮せど香として香沙汰なく今度は北支邊で行動不明になつたではないかと逆に心配し出す仕末。もう見えぬものと折角踏えた戦費を忘年会でハタイであつて背くなつた氣の早い連中も二三あつた。處が正月二日朝露蘇機嫌の處へ兩君畫奉天着の國際電報が飛込み勿體として奉天に向ふ。以下毎日の動靜の走り書。二日 倉澤君北京發急行で來着、益淵夫妻、小松夫妻と共に迎へホービルホテルに落付き暗くなるまで話し會ひ夜は零下三〇度の火の消えた様な正月休の街の中を歩き廻つた。三日 朝益淵小松の新夫人と倉澤、湯川の兩老四人にて奉天の町中をドライブし倉澤君はその儘益淵君の東道にて南行、海城にて坂田、本間(國)、古川、今井君等の歓迎を受け次の列車で海城まで出迎の池田君南行の今井君東道の本間、益淵君等と共に熊岳城に向ひ夕着。一方白澤君は北京でオーバー着服未遂事件で道草を食ひ一日遅れて本日到着。湯川出迎ホテルで話し合つて居る處へ海城より電話あり無理矢理白澤君を引張つて熊岳城に向ふ。熊岳城では池田、鷹野、岡、大山、藤田の農試組に原組、青木の蓋平、それに坂田、本間、益淵の海城組、外湯川とお客さん二人計十三名の千曲會豪華版。白澤君は滞支數年の支那通であり大陸談の裏表、それに兩澤大陸彌次多式漫談に夜の更けるも知らない。白澤君此前來熊の時全滿會員二一三名であつたがその發展に驚く。四日 試驗場の自動車で雪の中を試驗場と温泉を一巡後倉澤、本間、益淵君等大連行之に引づられて白澤、湯川も加はり大連座となり新春の食堂車を賑はす。大連では長田、今井、橋本君等に迎えられる話と味覺に愉快な一夜を過し一泊。五日 倉澤君は今井、本間、益淵君等と旅順行、十里の長汀曲浦をドライブして戦蹟見学、乃木ステツセル將軍會見所では丁度三十五週年の當日にて一行お祝酒を聞し召す。白澤君と湯川は朝大連發夕開原に下車し湯川宅に一泊。六日 朝白澤君は北行中の倉澤君と同車し共に新京に向ひ、出野君の案内にて濱君宅を訪問産業部其他に顔を出し桃開で歓迎の小宴の後アジアにて白澤君、倉澤君を東道してハルビンに向ふ。七日 白澤君はアジアにて南行奉天で小松君に會ひ歡談の上歸國の途につき倉澤君は用務を果し夜行にて南に下る。八日 朝倉澤君開原着、湯川宅にて一睡し晝共四豐の柞蠶繭場を訪問、眞の山の中の滿洲の田舎を見て認識を深めたらし。夜は杉浦、田上君と共に歡談數刻。九日 朝西豊を湯川と共に出發、開原に少憩して夕方奉天に向ひ湯川文安東に先發。倉澤君は奉天に泊る。十日 前夜前車脱線事故にて空しく一夜を寝臺車に明した湯川、漂然として汽車諸共奉天に逆戻り倉澤君だけ夜行にて安東に向ふ。十一日 朝安東着岡崎、本間君、萩原、山崎嬢等に迎へられ柞蠶繭検査所、製絲場等を視察し東雲にて小宴後夜行にて鴨綠江を渡り滿洲に左様ならをする。あとがき 白澤君は會員中での支那通であり心臓も強い方で左黨である。右黨の倉澤君とはいふコンビで特にきながら暴風雨の様な大陸動亂の中を滑つての旅行につき相當息詰るやうな興味ある話もあつた、こんな話は到底筆には出來ないものでホヤ／＼の視察談を聴き得たるを多ととする。時恰も滿洲極寒期で毎日零下二〇―三〇であつたが皆平氣で暮してゐる有様、特に寧ろ内地より高い文化生活の様子、就中全會員が元氣一杯で仕事をやつて居る模様は充分觀取された事は倉澤君の手紙「矢張り外地の人は一處となつて美しい統制の下にやつて行く處が頼もしい。如何にもあの大きな氣分で天地を對手としてやつて行き度いでずな……」を見て明かと思ふ。今後は一層大陸意識を母校の訓育にも反映して有爲の戦士を續々大陸にも送り出して頂きたい。終に以上の様な次第なる上正月休中に會員間の聯絡も充分出来ず双方に失禮の點不赦不惡御諒免を乞ふ次第である。以上の記事にも又多少相違遺漏あるやも知れず御諒恕を願ふ。(湯川記)

満洲から

がまの油屋

多事多難な康徳五年も過ぎ去つて新らしい年がやつて来た。肩のこらない様...

新年早々、それも来る／＼と噂のみでさつぱり来ない倉澤先生を待ち切れず折角の新年だから田舎では拜んでも見られぬ活動見物に出かけた。大体来られる由の電報を間接に聞いたので萬が一ても御會ひ出来るかなと思ひつゞきさきさき紛れ...

の來奉を待たれる爲め残る。さあ之から同行だ。餘り乗つた事のない二等切符を無理して買つて乗つて見れば超満員止むなく立ちん棒。それで三時間も乗つて降りたるは満洲でも有名な山芋の産地海城、連絡宜敷、今井、坂田、池田、本間諸氏の盛大なる御出迎、早速席を設けて祝宴、先生盛んに御馳走はいらぬとおつしやる。ものゝ二時間もして全員熊岳城に直行。この時西豊の田上氏も加はり...

マートな賑やかさ、備比する大建築、之ぞ満洲の大玄關大連だ。さあ久し振りに新しい日本の酒が飲める、そして魚も夜幸樂園に於て一行に長田さん加はり色々の御話に花を咲かせつゝ美味しい數々の料理、御酒など御馳走になる。此の夜大連は殊の外寒かつた。奉天から毛皮の帽子が欲しい欲しいと云つて居られた先生、街頭の毛皮帽子が目にとまつてなかな御熱心、これに加はつて我々が値切る。とたんに二回程安くなる。白澤さんも一個求められ御二人とも早速耳覆ひして「あ、これは良い。内地でスキーにかぶつて行く」に御休み。

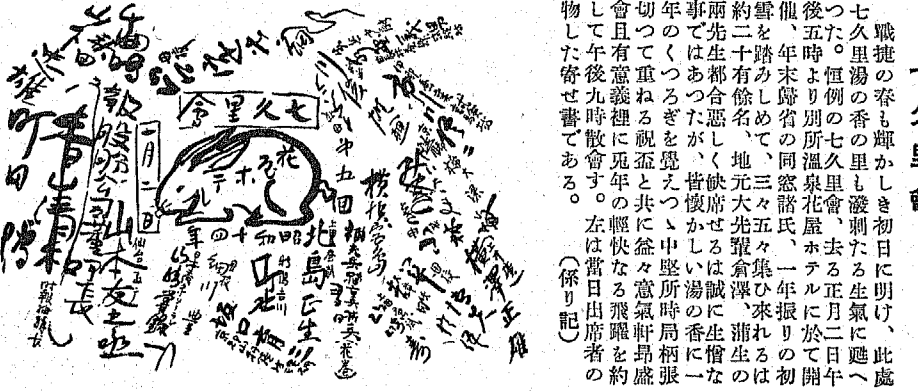
乗つて汽車はまあ遅い事遅い事、腹も減り出し食堂車に出掛ける。一行は湯川支會長を始め倉澤先生、白澤氏、他本間氏及びがまの油屋氏、先生の御食事と見ればまあおやしき事、コーヒー、オートミル、ピフターキ、ヤサイサラダ、トースト、こちらに盛んにビールの泡を飲む。夜の食事の事を心配して共食を加減する御方、飲むなら飲めればと努力する者之即ち筆者、捲かれて巡るアルコーリかな、夢心地にて眠氣を催す。ごろりと席に横たわりて眠る事二時間、起きて眺むればまだ御ゆつくりと夢を食つて居られる御二人、ちよいと前の方を見つゝ實に御綺麗なた方が居られ空だつた二等車も大連が近づくと從つて段々と空席が減つて来る。無暗に煙草をふかして居る中ののが乾いた。金州で林檎を買つたが旨い事旨い事、一變に目がさめて美しい關東州の景氣を楽しむ。

近頃南滿は新婚づくめだ。そのせいか今年には番狂の吸かきでグーツとなりそう。南から北に上る、蓋家嶺の大山きう、熊岳城の嶺野さん、蕪平の原さん、今年新婚の最も新しい水野さん、海城の古川さん、奉天の小松さん、あつとぬかした海城の〇〇さん、此の一角のホヤホヤと故郷を紹介したんちや紙數が足りぬと故郷に有名なT.A.氏の新家庭振りぬき苦心の結果調査探検し得たるを以て此處に掲ぐ。あ、回滿るかな。

どうせ食事はせねばならぬ故金は拂はねばならぬからどうぞうんと食べてくれと先生が云はれるので腹の減つたの平気で後から来た御客さんの食べのものがなくなる程だつた。先生が少々氣の毒に思はれて五回も謝禮する様にとの事だつたので軽くうなづいて本間さんと相談し

倉澤教授歓迎會 倉澤教授は滿支視察の歸途一月十二日朝鮮京城に立寄りたるを以て、在鮮會員多數參集、歓迎會を開催した。左は當日出席者の寄せ書である。

七久里會 職捷の春も輝かしき初日に明け、此處七久里湯の香も里も發刺たる生氣に甦つた。恒例の七久里會、去る正月二日午後五時より別所温泉花屋ホテルに於て開會、年末歸省の同窓諸氏、一年振りの初雪を踏みしめて、三々五々集り來れるは約二十有餘名、地元大先輩倉澤、蒲生、兩先生都合悪く缺席せるは誠に生憎な事ではあつたが、皆懐かしい湯の香に一年のくつろぎを覺えつゝ、中堅所時局柄張切つて重なる祝盃と共に益々意氣軒昂盛會且有義理に兎年の輕快なる飛躍を約して午後九時散會す。左は當日出席者の物した寄せ書である。(係日記)



戰地通信

秋山實氏より

向來の候と相成り諸先生並に在枝千曲... 會諸兄には御變り無之候や御伺ひ申上げ...

谷島前配屬將校より

謹賀新年、遂に中支の空より校長閣下外... 職員各位の多幸なる新春を迎へ遊ばさる...

清水洗氏より

謹而新年の御喜びを申し上げ會員の御健... 康を衷心より祈上候。降而小生昨年十二...

月三十日無事待望の漢口へ入場致居候。... 市内を一巡致し整然たる光景に驚入候。

御子柴義之氏より

早々年賀状賜り有難く拜見いたしまし... た。先生始末御事家御一同様には御機嫌...

百瀬正氏より

過日御郵重にも御年賀を賜りまして誠... に有難く御厚志の程を厚く御禮申上げま...

旗は支那家屋の間にボツリと立てら... れ支那人と密接に提携し支那民衆に食...

計報

島倉惣次郎氏逝去

岡谷市増澤商店勤務島倉惣次郎氏(幼...

小川春男氏逝去

十二月廿九日附を以て令園とみ枝氏... 小川春男氏翁を以て病氣の處薬石の効無...

小島杉門氏

一月廿七日小島敏氏より小島杉門氏... 一月廿七日南京にて戦病死せられた旨...

故大屋晨義氏の詳報

前月號に報告の十二月二日逝去せられ... た大屋晨義氏(〇)の御遺族は鹿兒...

弔慰金募集

故兒玉慶次氏(八) 故井手末馬氏(二十) 故小川春男氏(二十)...

弔慰金報告

Table listing names and amounts of condolence money received, including entries like '山口永太郎氏弔慰金第五回' and '山越 茂'.

會員動靜 (二月五日)

- 今井又藏(一) (住)山形縣新庄町
矢澤茂登(一) (勤)從前通り(住)朝鮮京城府龍頭町一四〇
酒井末吉(一) (勤)飯田市、下伊那郡聯合事務所(住)飯田市大字上飯田五九八八
古山宗八(一) (勤)仙臺市堤通一三四蠶絲會館、宮城縣蠶業組合聯合會
岸野潤一(一) (勤)仙臺市堤通一九五幸新館方
太田慎一郎(一) (勤)島根縣今市町、島根縣蠶業取締所今市支所兼飯川郡養蠶組合(住)松江市中中原二〇八
井上克巳(一) (勤)從前通り(住)宮崎市霧島町、農林省蠶絲試驗場宮崎支場官舎
中田太郎(一) (住)鳥取市葦原町二八
久保田昌人(一) (勤)從前通り(住)中華民國上海崇明路八二號新上海ホテル
窪田太郎(一) (勤)從前通り(住)福岡縣築上柴八屋町森本文吉方
小島杉門(一) (勤)昭和一四、一、一七戰病死
宮崎清治(一) (勤)和歌山縣經濟部農務課(住)和歌山市北坂上町三
川村吉太郎(一) (勤)富山縣下新川郡入善町、富山縣立入善農學校(住)入善町
佐藤重太郎(一) (勤)兵庫縣津名郡洲本町、鐵紡織地社宅第五號
宮川繁治(一) (勤)岐阜市西野町三丁目、岐阜縣蠶業取締所岐阜支所
加々井精喜(一) (勤)松本市蠶玉町、片倉普及園
兒玉信登(一) (勤)松本市、新木縣立新木農學校(住)松本市宿森八七
小林重男(一) (勤)松本市出水町、熊本縣蠶業試驗場(住)熊本市出水町今五七二
須藤清吉郎(一) (勤)滿洲國牡丹江省寧安縣城、省立寧安女子國民高等學校
酒井嘉美(一) (勤)從前通り(住)新潟縣村松町女學校裏
橋本博(一) (勤)從前通り(住)新潟縣村松町女學校裏
古川正喜(一) (勤)滿洲國奉天省海城縣公署農事合作社、副業工業試驗場(住)海城街萬洋街一九
額富正廣(一) (勤)應召先變更
仁尾隆太(一) (勤)應召先變更(留守宅)岡山縣小田郡中川村
倉元隆義(一) (勤)死亡昭和一一、一二、一二死亡
大尾彰夫(一) (勤)應召先變更
清水洋(一) (勤)應召先變更
西澤良一(一) (勤)應召先變更
平岡英司(一) (勤)應召先變更
藤田四郎(一) (勤)應召先變更
小松茂男(一) (勤)東洋紡績株式會社(住)滿洲國奉天市竹園町四番地、東京市東山区山科町山科、鐘紡山科理化學研究所(住)京都市東山区山科町西野様子見町
坂口育三(一) (勤)滿洲國々務院産業部農務司(住)新京興安大路石橋ビル
出野正雄(一) (勤)滿洲國々務院産業部農務司(住)新京興安大路石橋ビル
宮下弘(一) (勤)本校養蠶科病理學教室
戸塚一弘(一) (勤)本校養蠶科病理學教室
松吉博孝(一) (勤)本校養蠶科病理學教室
堀口友治(一) (勤)本校養蠶科病理學教室
島田全(一) (勤)本校養蠶科病理學教室
中西博(一) (勤)本校養蠶科病理學教室
松永義徳(一) (勤)臺灣基隆重砲兵聯隊一中三班
水出量(一) (勤)應召
岡田量雄(一) (勤)兵役)宇都宮野砲兵二〇聯隊三中隊五班
長倉稔(一) (勤)兵役)松本歩兵五〇聯隊補充隊九中隊一班
兒玉貫吾(一) (勤)兵役)宇都宮市河田部隊宇治隊
生天目久平(一) (勤)兵役)宇都宮市河田部隊鈴木隊

- 田浦準(一) (勤)岐阜縣可兒郡廣見町、岐阜縣蠶檢定所(住)廣見町伊川
坂卷文彦(一) (勤)從前通り(住)東京市杉並區阿佐ヶ谷四ノ四六八
坂内眞喜雄(一) (勤)神戶市灘區天城通り五ノ四
加美好男(一) (勤)神戶市灘區藤原町四ノ七三〇(訂正)
小山久一(一) (勤)從前通り(住)福島縣白河町宇野一〇二
井上一郎(一) (勤)神戶市須磨區須磨見台町三ノ四四
三浦重雄(一) (勤)神戶市須磨區須磨見台町三ノ四四
河井正(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
若林新一郎(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
緒方良純(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
是石春男(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
小川兼雄(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
三木辰雄(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
小川春男(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
生井精一(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
山田喜藏(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
山田良人(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
山崎保太郎(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
小關悦郎(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
古平庄衛(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
宮下文四郎(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
矢島文雄(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
大上金之助(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
大上吉清(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
金丸功(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
征谷克郎(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
大岩榮喜(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
牛草榮喜(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
横澤平(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
上木忠士(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
久保井左武郎(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
鈴木武夫(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
河合式太郎(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
神崎開一(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
山浦克巳(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
山木辰雄(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
宮原英俊(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
岩田久太夫(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
青木善次(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
宮島四郎(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
川村千尋(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
小松正敏(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
和田利章(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
村上重(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
安部美(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
日幡映(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
倉田正一(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
濱田浩(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
上田實(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三
高田正氣(一) (勤)東京市日本橋區本町、富士瓦斯紡績會社本社(住)横濱市中西區久保町一四三

投稿規定

一、内容は不問、平易なる學術研究、會員消息に關する物は特に歡迎。取捨は當方に一任せられたい。編輯の都合に依り全部又は一部を來月廻しとする事がある。
一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻致しません。
一、締切は毎月六日限、特に一月號は一日發行とする爲め二十日限とする。
一、原稿は開封し三錢切手(第四種百二十瓦迄)を貼布して送附し通信文があつたら別に葉書等にて通知されが得策である。
一、必ず原稿紙を使用し明瞭に普通平假名で書き下さい。又句讀點を必ず施して一字分の間隔を置いて下さい。
一、匿名で掲載希望の場合も編輯部丈は姓名をお明し下さい。然らざれば遺憾乍ら掲載を見合せる場合があります。
一、圖面や寄せ書は一尺八寸×一尺三寸以内とし必ず白紙に墨書して下さい。
一、原稿紙は御請求次第送附す。普通の原稿紙を使用する場合は一行十八文字書込まれ度い。

廣告規定

寸法	期間	一月	六月	一年
一頁	1/25	100.00	1100.00	1100.00
1/16	1/16	100.00	1100.00	1100.00
1/8	1/8	100.00	1100.00	1100.00
1/4	1/4	100.00	1100.00	1100.00
1/2	1/2	100.00	1100.00	1100.00

但し本會員は七掛とす。

Table with columns for names, titles, and addresses. Includes names like 小松忠幸, 後藤政之, 吉津真澄, etc.

御挨拶
謹啓 時下殘寒骨に沁む候各位には益々御挨拶
除役御挨拶
先取敢て略儀に紙上御挨拶申述

退職御挨拶
拜啓 餘寒未だ去り難く候處愈々御挨拶
陳者小生儀母校製線科副手として勤務

昇進御挨拶
拜啓 時下嚴寒之候愈々御健勝之段
奉賀 陳者小生儀本校紡織科業手を勤務致居候今御挨拶を以て履

新任御挨拶
拜啓 嚴寒之候愈々御清榮の段奉賀
賀 陳者今般小生儀母校製線科副手として勤務致す事と相成り候に就

歸校御挨拶
謹啓 時下殘寒骨に沁む候各位には益々御挨拶
御挨拶 陳者小生儀母校製線科副手として勤務

昭和十四年度蠶種案内
○交雜種
龍華 江仙
○原蠶種
龍華 分離白一號

編輯室より
△何時も第一面記事の不足に悩んでおる
△紙に保存しては毎月の多量に思ふ